

神輿づくりを通して「地域の強み」を発見・活用する —未来を担う子ども達を中心に地域が関わり合う—

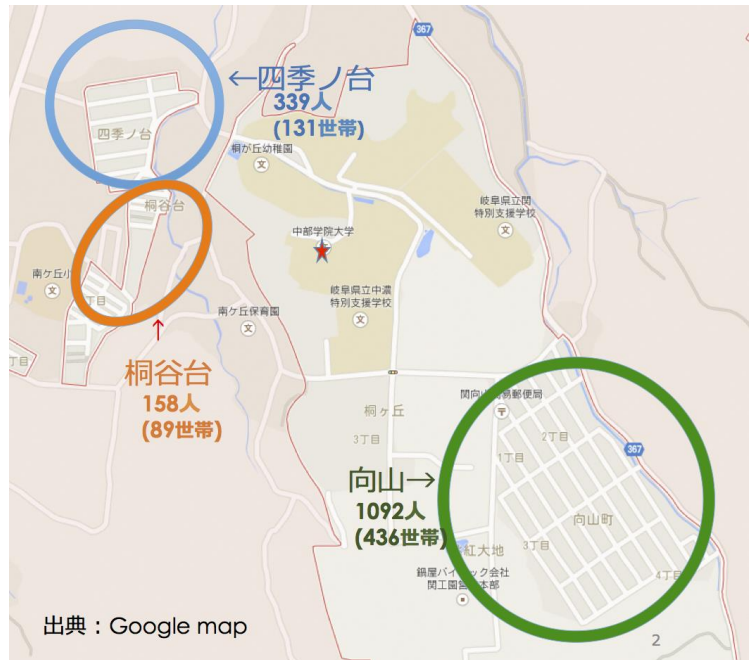
I 地域の活性化に繋ぐ

1.活動の概要

谷口研究室ではこれまで、大学に隣接する倉知地区(向山・桐谷台・四季ノ台)の、自治会縮小・消滅の危機、高齢化、地域の孤立等の課題について実態調査および問題の共有化を図る地域懇談会を開催してきた。今年度は、未来を担う子ども達を中心に、共に創造する活動(神輿づくり)を通して「地域の強み」を発見・活用する取り組みを実施した。

2.目的

未来を担う子ども達を中心に神輿づくりを通して地域が関わりあい、潜在化した地域力を再生する手がりとする。



II 活動①事前調査と組織づくり

1.地域を歩く

先輩たちの成果資料等を学び、課題に向かう力を育てた。また「地域貢献」の理解を深め、新たな視点で住民と対話を図りながら観察踏査を実施した。(①道路等インフラ設備、②生活施設、③町の雰囲気の3つを検証し、総合的に地域の長所・短所を明らかにした)。

2.支部社協との合同会議

観察踏査の結果を踏まえて、倉知地区の支部社協(小学校区で住民参画のもと実践する組織)の方々と地域交流会を開催した。この会議で、学生の行った地域アセスメントの修正と今後、協働すべく内容とその方法を検討した。

3.協働体制をつくる

3つのキーワードについて支部社協と学生が共通認識を図る

① 協働とは

(地域に暮らす人々らが相互に平等の立場で心を合わせて活動する)

② 地域力とは(組織力、自治力、協働力、変革力を総合した力。

協働を重ねると地域力も高まる)

③ 地域で共通の価値を見出す(地域が目指すものを一緒に探す)

4.実行委員会の設立

神輿プロジェクト実施するにあたり、組織を広げ実行委員会を立ち上げた。支部社協の皆さんが実行委員会メンバーを繋げていただいた。メンバーが目的に向かって役割分担を行なった。



Ⅲ活動②神輿コンテストへ実働

1.神輿づくり導入

① 神輿コンテストの周知

実行委員による地域への働き掛けとポスター・チラシの作成と配布を行う。

② 「たのしみん祭」にて神輿づくりのデモンストレーション

神輿づくりの具体的な活動に地域の方々に触れていただく最初の導入とした。

当日、子どもの参加が危ぶまれていたが、実行委員の働き掛けで 30 名程の参加(南ヶ丘小学校全校生徒 96 人)があった。



2.神輿づくりの作業

参加することもが不安にならないように当日の作業の行程を、プロジェクターを使って手順の説明。

神輿はピカチュウ神輿、信長神輿、ひまわり学園の神輿、中部学院大学の神輿 4 基作る事ができた。

Ⅳ神輿コンテストの実施

2016 年 11 月 27 日(日)小雨が降る中、実行委員はじめ学生らが協力して準備を進めた。地域住民 72 名参加者していただいた。オープニングは中部学院大学和太鼓サークルの演奏に始まり、神輿パフォーマンス、お汁粉サービス、総評、映像によるこれまでの取り組み紹介を行い約 2 時間半楽しい時間をすごした。



Ⅴ解決提案の方向性

1.活動評価

①地域の課題に資する物であるか

- ・神輿づくりの道のりは創造力の連続(「できない」ではなく、できるためには何が必要かの発想)
- ・子ども、地域住民、学生に絆が生まれた(相互にパートナー意識)
- ・学習支援ボランティアが誕生した(小学校からの要望から生れる)
- ・地域の細やかなサポート活動を発見(これまでの実態調査で、住民の自治会への期待が大きかったことの裏付け)
- ・活動過程における合議に課題(意思の確認・合意が入念にできなかった)

②継続的であるか

- ・実行委員会が存続し、今後の協働体制への導入(次年度に向け新たな関わり方を検証)

③学生が主体的かつ、責任を持って関わったか

- ・一部の学生に負担増、学生の主体性と責任感にばらつき(実践力の向上について自他評必要)
- ・活動(神輿コンテスト)の決定と体制づくりに時間を要し、地域への案内と神輿づくりの実働がタイトになった
- ・過程で、実行委員と学生の協調関係が結ばれる



2.今後の課題

次年度に向け、実行委員会にて事業の検証を行い地域の活性化と福祉文化の継承を目指す。また、今回の取り組みから生まれた学習支援ボランティアの活動を充実させる。今後、地域から提案・依頼を大学に気軽に持ち込める関係づくりを行う。

この事業を通し、私たちは地域と関わる意義を痛感いたしました。実行委員の皆様はじめ地域の関わっていただいた方々、関係各所に心から感謝いたします。